

【提出様式・CS校】 令和6年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 仰高小 学校

評価対象者数（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
220	132	15	10

標準 入力用
A
B
C
D

領域	豊島区教育 ビジョン 2019 基本方針等	評価 番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に 向けた 改善策					
				児童・生徒				保護者					地域					教職員		自己評価 概要	学校関係者 評価の意見		標 語				
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3					2	1		
I	就学前から小学 校・中学校への 円滑な接続	I－1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、 中学校)と連携を図ろうとしている。							35	61	15	2	19	9	1	0	0	0	4	10	1	0	保護者の「分からない」を含めた否定的な評価が多い。保幼小中で連携したり、交流したりしている様子を見る機会が少ないことや広報活動の不十分さが原因である。	学童では年長園児の体験入室を実施している。次年度から発足する保幼小連携の会議で協議し、具体的な取組を拡大してほしい。	A	連携や交流の様子を学校だよりや学校HPなどで積極的に伝えていく。また、仰高サポータークラブで交流活動の見守りや補助のボランティアを募り、実際に関わってもらう機会をつくる。保幼小の連携については拡充を検討していく。
II	確かな 学力の育成	II－1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児 童 ・ 生 徒 を 対 象 と し た ア ン ケ ー ト 集 計 表 を ご 参 照 く だ さ い。						54	68	6	0	4	9	0	0	0	1	5	10	0	0	仰高スタンダードをもとにした学習規律と授業の構造化により、基礎学力の定着を図ることができた。授業参観する保護者や地域の方も多く、家庭学習にも協力的である。教員は校内研究やOJT、スキルアップ研修で指導力を向上させている。タブレットPCを子供同士のコミュニケーションや評価活動に活用する場面が増えてきている。	授業参観をさせてもらうことで、子供たちがICTを上手に活用している姿を見ることができた。2年生ですでに分数を教わっていたが、デジタル教科書の図解を見ながら集中して話を聞く態度が素晴らしかった。先生方の努力に感謝したい。	A	「読み・書き・計算」などの基礎基本の定着を図りながら、校内研究で提唱した学びのサイクル「自分で決める・やってみる・振り返る」を足がかりとして、児童の自己調整力の向上を目指した授業改善に取り組んでいく。引き続きCS委員やPTA役員、地域の方々による授業参観の機会を定期的に設定し、児童と教員の変容を評価していただく。タブレットPCの家庭学習での活用やプログラミング教育の推進を図っていく。
		II－2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。							60	56	11	2	3	8	1	0	0	1	6	9	0	0	児童は様々な学校行事やSDGs、ISSの活動で自然の豊かさや命の大切さを学び、安全安心な学校づくりに取り組むことで道徳性や社会性を身に付けてきている。しかしながら、i-checkやアンケートなどの調査及び日頃の様子から、一部には自己肯定感が低い、集団に馴染めない、学校が楽しくない等と感じている児童も見受けられる。	豊かに思いやりのある子供たちに育ってもらいたいと思っている。ピオトープを活用して動植物の命を身近に感じる機会を増やしてもらいたい。	A	多角的な物の見方や考え方を認め合いながら個性を尊重する心情を「考え、議論する道徳」の推進により育てていく。道徳授業地区公開講座では、保護者や地域の方が参加しやすい、実生活に役立つ内容で講演会を開催する。SDGsやTSS（としまセーフスクール）を教科等横断的に指導計画に位置付け、環境と心の両面から安全安心な学校づくりを進める。学級経営や異学年交流活動、委員会活動やクラブ活動などで親和性を高め、居心地のよい関係性を築いていく。
III	豊かな 心の育成	III－1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をと おして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくり を推進している。							58	65	6	0	3	9	1	0	0	0	4	10	1	0	児童は様々な学校行事やSDGs、ISSの活動で自然の豊かさや命の大切さを学び、安全安心な学校づくりに取り組むことで道徳性や社会性を身に付けてきている。しかしながら、i-checkやアンケートなどの調査及び日頃の様子から、一部には自己肯定感が低い、集団に馴染めない、学校が楽しくない等と感じている児童も見受けられる。	豊かに思いやりのある子供たちに育ってもらいたいと思っている。ピオトープを活用して動植物の命を身近に感じる機会を増やしてもらいたい。	A	多角的な物の見方や考え方を認め合いながら個性を尊重する心情を「考え、議論する道徳」の推進により育てていく。道徳授業地区公開講座では、保護者や地域の方が参加しやすい、実生活に役立つ内容で講演会を開催する。SDGsやTSS（としまセーフスクール）を教科等横断的に指導計画に位置付け、環境と心の両面から安全安心な学校づくりを進める。学級経営や異学年交流活動、委員会活動やクラブ活動などで親和性を高め、居心地のよい関係性を築いていく。
		III－2	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優しい心を育てている。							58	60	12	0	2	8	2	0	0	0	2	11	1	0	児童は様々な学校行事やSDGs、ISSの活動で自然の豊かさや命の大切さを学び、安全安心な学校づくりに取り組むことで道徳性や社会性を身に付けてきている。しかしながら、i-checkやアンケートなどの調査及び日頃の様子から、一部には自己肯定感が低い、集団に馴染めない、学校が楽しくない等と感じている児童も見受けられる。	豊かに思いやりのある子供たちに育ってもらいたいと思っている。ピオトープを活用して動植物の命を身近に感じる機会を増やしてもらいたい。	A	多角的な物の見方や考え方を認め合いながら個性を尊重する心情を「考え、議論する道徳」の推進により育てていく。道徳授業地区公開講座では、保護者や地域の方が参加しやすい、実生活に役立つ内容で講演会を開催する。SDGsやTSS（としまセーフスクール）を教科等横断的に指導計画に位置付け、環境と心の両面から安全安心な学校づくりを進める。学級経営や異学年交流活動、委員会活動やクラブ活動などで親和性を高め、居心地のよい関係性を築いていく。
IV	健やかな 体の育成	IV－1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。							60	61	9	2	0	7	2	0	0	1	7	7	1	0	児童は休み時間や放課後によく体を動かしている。仰高スポーツフェスティバルや巣鴨地蔵通り商店街持久走、縄跳びなどに意欲的に取り組んでいる。遊び場の確保とケガを防止するためのルールについてバランスをとることが課題である。9月から1月の給食室改修工事による弁当給食で食欲や食育が停滞したことが、アンケート結果から明らかである。	巣鴨地蔵通り商店街で子供たちが走る姿で地域も元気がでる。これからも協力していきたい。給食室の工事が無事に終わって何よりである。食べることは健康の基本である。商店街には、歴史のある老舗や飲食店がたくさんあるので学習に役立ててほしい。	A	体力テストの結果を参考にしながら、年間を通して様々な運動を幅広く良く取り入れられるように行事予定に位置付ける。次年度も冬期は持久走や縄跳び（一人縄・大縄）など体力向上の習慣付けを重点化する。遊び場所の確保と遊びのルールについては、児童の意見を取り入れながら見直しをしていく。給食の再開により、食のありがたさを実感することができた。次年度に向けて再び食に関する情報提供や食育に力を入れていく。
		IV－2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。							21	46	38	18	9	5	3	1	0	1	3	5	7	0	児童は休み時間や放課後によく体を動かしている。仰高スポーツフェスティバルや巣鴨地蔵通り商店街持久走、縄跳びなどに意欲的に取り組んでいる。遊び場の確保とケガを防止するためのルールについてバランスをとることが課題である。9月から1月の給食室改修工事による弁当給食で食欲や食育が停滞したことが、アンケート結果から明らかである。	巣鴨地蔵通り商店街で子供たちが走る姿で地域も元気がでる。これからも協力していきたい。給食室の工事が無事に終わって何よりである。食べることは健康の基本である。商店街には、歴史のある老舗や飲食店がたくさんあるので学習に役立ててほしい。	A	体力テストの結果を参考にしながら、年間を通して様々な運動を幅広く良く取り入れられるように行事予定に位置付ける。次年度も冬期は持久走や縄跳び（一人縄・大縄）など体力向上の習慣付けを重点化する。遊び場所の確保と遊びのルールについては、児童の意見を取り入れながら見直しをしていく。給食の再開により、食のありがたさを実感することができた。次年度に向けて再び食に関する情報提供や食育に力を入れていく。
V	一人一人を大切 にする 教育の推進	V－1	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、 早期対応）に学校全体で組織的に対応している。							46	52	19	0	15	8	2	0	0	0	13	2	0	0	いじめや友達からの暴力や暴言等に不安を感じている児童や保護者が一部にいる。教員はアンケートや面談を実施し、窓口を紹介して相談しやすい環境をつくり、早期発見・早期対応を心がけ、児童に寄り添って指導している。最初の保護者会がいじめ防止対策の説明をしたが、日常的な取組に伝わりにくさがある。特別な支援が必要な児童については、保護者の受容と専門機関への連携が課題である。	発達障がいについては、保護者の理解が進んできているが、伝えるのが難しい場合などは、民生児童委員に相談してほしい。虐待やネグレクト等のような重い案件だけでなく、気軽に相談できる近所の人として、学校と連携して子育ての悩みや外国籍家庭の支援などに取り組んでいきたい。	A	いじめ防止・児童理解・特別支援については、人権の観点で実際の事例を公表できないため、取組の紹介を工夫する。いじめに関しては、児童主体の予防的な活動をセーフスクール活動への位置付け、児童理解や特別支援教育については、より一層の相談体制の充実や専門機関との連携強化及び、専門家による講演等で啓発を行う。校内委員会を中心にSCやSSW、巡回心理士、ひいらぎ教室、教育センターの教育相談、袖の木（適応指導）教室、日本語指導等の専門機関と連携して、ニーズのある児童の見とりや支援を継続していく。
		V－2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。							55	47	17	2	11	7	3	0	0	0	5	10	0	0	いじめや友達からの暴力や暴言等に不安を感じている児童や保護者が一部にいる。教員はアンケートや面談を実施し、窓口を紹介して相談しやすい環境をつくり、早期発見・早期対応を心がけ、児童に寄り添って指導している。最初の保護者会がいじめ防止対策の説明をしたが、日常的な取組に伝わりにくさがある。特別な支援が必要な児童については、保護者の受容と専門機関への連携が課題である。	発達障がいについては、保護者の理解が進んできているが、伝えるのが難しい場合などは、民生児童委員に相談してほしい。虐待やネグレクト等のような重い案件だけでなく、気軽に相談できる近所の人として、学校と連携して子育ての悩みや外国籍家庭の支援などに取り組んでいきたい。	A	いじめ防止・児童理解・特別支援については、人権の観点で実際の事例を公表できないため、取組の紹介を工夫する。いじめに関しては、児童主体の予防的な活動をセーフスクール活動への位置付け、児童理解や特別支援教育については、より一層の相談体制の充実や専門機関との連携強化及び、専門家による講演等で啓発を行う。校内委員会を中心にSCやSSW、巡回心理士、ひいらぎ教室、教育センターの教育相談、袖の木（適応指導）教室、日本語指導等の専門機関と連携して、ニーズのある児童の見とりや支援を継続していく。
		V－3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。							37	36	19	1	39	7	3	0	0	0	1	14	0	0	いじめや友達からの暴力や暴言等に不安を感じている児童や保護者が一部にいる。教員はアンケートや面談を実施し、窓口を紹介して相談しやすい環境をつくり、早期発見・早期対応を心がけ、児童に寄り添って指導している。最初の保護者会がいじめ防止対策の説明をしたが、日常的な取組に伝わりにくさがある。特別な支援が必要な児童については、保護者の受容と専門機関への連携が課題である。	発達障がいについては、保護者の理解が進んできているが、伝えるのが難しい場合などは、民生児童委員に相談してほしい。虐待やネグレクト等のような重い案件だけでなく、気軽に相談できる近所の人として、学校と連携して子育ての悩みや外国籍家庭の支援などに取り組んでいきたい。	A	いじめ防止・児童理解・特別支援については、人権の観点で実際の事例を公表できないため、取組の紹介を工夫する。いじめに関しては、児童主体の予防的な活動をセーフスクール活動への位置付け、児童理解や特別支援教育については、より一層の相談体制の充実や専門機関との連携強化及び、専門家による講演等で啓発を行う。校内委員会を中心にSCやSSW、巡回心理士、ひいらぎ教室、教育センターの教育相談、袖の木（適応指導）教室、日本語指導等の専門機関と連携して、ニーズのある児童の見とりや支援を継続していく。
VI	教師力の向上と 魅力ある 学校づくり	VI－1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。							54	73	4	1	0	8	2	0	0	0	6	9	0	0	児童は学校や学級のルールを守って落ち着いた態度で学習や生活に取り組んでおり、保護者や地域の方々にも学校公開の参観などにより、概ね肯定的な評価を得ている。個別の支援が必要な児童や要望のある保護者にもできるだけ寄り添うように心がけている。	仰高小の子供たちは、地域でのトラブルもなく、学校でもとても落ち着いて生活している。先生方は個別の指導や対応も丁寧に行ってくれている。	A	生徒指導提要の改訂に沿って、児童の実態やICT化による教育環境の変化を鑑みて、学習（仰高スタンダード）や生活（仰高の子ども）等のきまりを見直し、その理由や利点などの合意形成を図るため、児童や保護者、地域の方の意見を取り入れながら改善を図っていく。
		VI－2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。							43	57	19	0	13	8	1	0	0	1	3	11	1	0	児童は学校や学級のルールを守って落ち着いた態度で学習や生活に取り組んでおり、保護者や地域の方々にも学校公開の参観などにより、概ね肯定的な評価を得ている。個別の支援が必要な児童や要望のある保護者にもできるだけ寄り添うように心がけている。	仰高小の子供たちは、地域でのトラブルもなく、学校でもとても落ち着いて生活している。先生方は個別の指導や対応も丁寧に行ってくれている。	A	生徒指導提要の改訂に沿って、児童の実態やICT化による教育環境の変化を鑑みて、学習（仰高スタンダード）や生活（仰高の子ども）等のきまりを見直し、その理由や利点などの合意形成を図るため、児童や保護者、地域の方の意見を取り入れながら改善を図っていく。
VII	家庭・地域との 連携	VII－1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。							48	66	14	1	3	9	1	0	0	0	6	9	0	0	学校だよりやHPで活動の様子を伝えているが、実施と広報までの時間差や情報量の調整に課題がある。学校公開等への参加率は高い。教員は家庭との連携に努め、必要に応じて専門家の協力を得てチームで対応している。町の清掃や商店街の七夕飾り、盆踊りへの参加等、地域との活動を行事予定に位置付けている。また、CS委員の協力でピオトープの活用、伝統文化の事前授業等が実施している。習い事や受験のため、休日の地域行事に参加できない児童がいる。	区民ひろは仰高では、小学生が静かに宿題をする姿が見られる。おもちゃコーナーも設置しているので、活用してほしい。2年生の町探検の感想やお便りをもらってうれしい。これからも公共施設と学校の関わりを広げていきたい。CS学校応援団の組織づくりや地域コーディネーターの人選などが今後の課題である。会議を二部制にするなど参加しやすい体制づくりも考えたい。	A	学校の様子を早く分かりやすく伝える工夫をする。CS実践校として「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有する（教育基本法第10条）」ことの自覚を促し、学校と地域と保護者が協力して児童の成長を支える理念を繰り返し伝えていく。個別の支援が必要な児童や家庭には、専門家や専門機関と連携して支援体制をつくり、中長期的な見通しをもって引き継ぐ。学校の外部と連携している活動のうち、形骸化しているものや負担が大きいものを見直しながら、価値付けを明確にして地域と連携した活動や行事を運営していく。次年度よりCS地域学校協働本部を設置し、地域コーディネーターを委嘱してネットワークづくりを開始する。
		VII－2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。							59	64	5	0	4	9	0	0	0	0	4	11	0	0	学校だよりやHPで活動の様子を伝えているが、実施と広報までの時間差や情報量の調整に課題がある。学校公開等への参加率は高い。教員は家庭との連携に努め、必要に応じて専門家の協力を得てチームで対応している。町の清掃や商店街の七夕飾り、盆踊りへの参加等、地域との活動を行事予定に位置付けている。また、CS委員の協力でピオトープの活用、伝統文化の事前授業等が実施している。習い事や受験のため、休日の地域行事に参加できない児童がいる。	区民ひろは仰高では、小学生が静かに宿題をする姿が見られる。おもちゃコーナーも設置しているので、活用してほしい。2年生の町探検の感想やお便りをもらってうれしい。これからも公共施設と学校の関わりを広げていきたい。CS学校応援団の組織づくりや地域コーディネーターの人選などが今後の課題である。会議を二部制にするなど参加しやすい体制づくりも考えたい。	A	学校の様子を早く分かりやすく伝える工夫をする。CS実践校として「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有する（教育基本法第10条）」ことの自覚を促し、学校と地域と保護者が協力して児童の成長を支える理念を繰り返し伝えていく。個別の支援が必要な児童や家庭には、専門家や専門機関と連携して支援体制をつくり、中長期的な見通しをもって引き継ぐ。学校の外部と連携している活動のうち、形骸化しているものや負担が大きいものを見直しながら、価値付けを明確にして地域と連携した活動や行事を運営していく。次年度よりCS地域学校協働本部を設置し、地域コーディネーターを委嘱してネットワークづくりを開始する。
		VII－3	学校はコミュニティ・スクールを推進し、保護者・地域住民等が学校運営に参画し、学校と一体となって子どもたちを育む体制を構築している。							47	61	10	0	14	9	1	0	0	0	1	10	3	0	学校だよりやHPで活動の様子を伝えているが、実施と広報までの時間差や情報量の調整に課題がある。学校公開等への参加率は高い。教員は家庭との連携に努め、必要に応じて専門家の協力を得てチームで対応している。町の清掃や商店街の七夕飾り、盆踊りへの参加等、地域との活動を行事予定に位置付けている。また、CS委員の協力でピオトープの活用、伝統文化の事前授業等が実施している。習い事や受験のため、休日の地域行事に参加できない児童がいる。	区民ひろは仰高では、小学生が静かに宿題をする姿が見られる。おもちゃコーナーも設置しているので、活用してほしい。2年生の町探検の感想やお便りをもらってうれしい。これからも公共施設と学校の関わりを広げていきたい。CS学校応援団の組織づくりや地域コーディネーターの人選などが今後の課題である。会議を二部制にするなど参加しやすい体制づくりも考えたい。	A	学校の様子を早く分かりやすく伝える工夫をする。CS実践校として「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有する（教育基本法第10条）」ことの自覚を促し、学校と地域と保護者が協力して児童の成長を支える理念を繰り返し伝えていく。個別の支援が必要な児童や家庭には、専門家や専門機関と連携して支援体制をつくり、中長期的な見通しをもって引き継ぐ。学校の外部と連携している活動のうち、形骸化しているものや負担が大きいものを見直しながら、価値付けを明確にして地域と連携した活動や行事を運営していく。次年度よりCS地域学校協働本部を設置し、地域コーディネーターを委嘱してネットワークづくりを開始する。
VIII	特色ある 教育活動	VIII－1	学校は、安全・安心な学校づくり（ISS）や体育・健康への取り組みに関する教育を推進している。						59	59	8	1	5	10	0	0	0	0	3	11	1	0	児童会活動にISSを位置付け、児童の気づきや発想を生かして、安全・安心な学校づくりの活動を進めている。また、前年度の体育健康教育の研究発表の成果を生かして、姿勢ストレッチや眼球体操などを継続している。	地元の消防署としても避難訓練で子供たちが誰もしゃべらず整然と避難行動ができていた姿に驚いた。AEDや心肺蘇生の講習なども積極的に協力したい。	A	ISSの理念を受け継いだTSS活動を展開し、児童からのアイデアを生かして、より具体的に視覚的に分かりやすい安全・安心の取組となるように工夫をしていく。また、CSの関連において防災についての意識も高めていく。	
IX	働き方改革	IX－1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。																3	9	3	0	校内研究では、タブレットPCの活用で研究紀要作成の業務が軽減できた。会議の精選や時間内での運用を心がけ、事前の情報共有が習慣となってきたが、特別支援やいじめ、不登校の対応等が時間内で収まらない。	先生方は本当に大変な毎日を送っている。健康に気を付けていただきたい。地域で協力できることがあれば遠慮なく相談してほしい。	A	安全安心メールのシステム変更による保護者との出欠連絡や情報共有、アンケート回収等の方法を整理し、校務の軽減を図っていく。校務支援システムや教育用タブレットPCのより効果的な使い方を検討する。	

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある